

えん + じん

発行：
多賀城市市民活動サポートセンター
(たがさぼ)

第10号【毎月1日発行】

発行日：平成24年7月1日

被災地で生活している方、復興支援活動をしている方を応援する情報誌です。



5月27日(日)、晴天の空の下、多賀城駅前にて「ライブ in 多賀城」が開催されました。企画したのは多賀城駅前ににぎわいをもたらす取り組みを行っている「T.A.P多賀城」と「ライブを聴こうin多賀城実行委員会」です。これまで音楽の力で駅前を盛り上げていました。去年は震災の影響で開催が見送られましたが、今回は2年ぶりの復活となりました。出演するのは県内各地で活躍するミュージシャンたち。自分たちの愛する音楽をお客さんに届け、多賀城に以前のようににぎわいをもたらしてくれました。



写真：ライブに出演するミュージシャン

もくじ

- P 1…ライブ in 多賀城
- P 2…特集 被災者に寄り添う支援
- P 3…多賀城お役立ち情報コーナー
- P 4…NPO相談窓口／たがさぼブックレビュー

特集 被災者に寄り添う支援 —復興支えあいセンター—

多賀城市の被災者の生活を支える多賀城市社協復興支えあいセンター。緊急的な支援を行っていた「災害ボランティアセンター」から昨年の7月に名称が変更され、より被災者の生活に寄り添った活動に重点を置いた支援を行っています。

今回は、復興支えあいセンターとして活動を続け1年が経ち、今までの支援の状況やこれから被災者支援を行う上で必要なことをお聞きました。

●震災直後(緊急支援期)

多賀城市社会福祉協議会は、昨年の震災後3月16日に「災害ボランティアセンター」を立ち上げました。多賀城市内外からボランティアを募り、主に津波被害に遭った方の家屋の片づけや泥だし、地域の側溝の掃除といったニーズとのマッチングを行いました。また、多賀城市外から多くの企業や団体が駆けつけ、避難所を中心とした緊急物資の提供や炊き出しに対して調整役として大きな役割を果たしました。

●平成23年5月以降の状況(生活支援期)

昨年6月頃から徐々に片づけや泥だしといったニーズは減り始めました。また、仮設住宅への入居が5月から開始され、生活の場が避難所から仮設住宅へ移るとともに、支援の内容は緊急的なものから健康相談・サロン・マッサージ等の心身のケアや見守り活動等の生活支援といったものになっていきました。そこで、7月12日に「災害ボランティアセンター」は「復興支えあいセンター」へと名称を変更し、被災者の生活に寄り添った支援を行っていくこととなりました。

●今の状況(生活支援・コミュニティ支援期)

震災から1年以上が経ち、多賀城市外からの支援は落ちつきつつあります。物資支援や多くのボランティアの手を必要とする泥だし等はすでにニーズはありませんが、被災者同士が交流するきっかけとなる取り組み、被災者が元気になるような活動はこれからも必要となります。しかし、いつまでも市外の団体からの支援を受け入れるだけでは復興につながりません。市外からの支援がなくなった途端に活気やつながりが薄れてしまっは意味がないのです。今後は、多賀城の被災者が自ら復興の活力を生み、生活再建に向けて動き

出すことが大切です。そこで、現在「復興支えあいセンター」では、被災者も一緒になって取り組める活動や被災者の声から生まれた活動に重点を置いています。仮設住宅では、住民も一緒に唄える歌謡サロンや住民が自ら発案した表札づくり等が行われ、徐々に「支援を受ける側」から「参加する・企画する側」へと変わってきています。最終的には、被災者自身が「やりたいこと」を企画し、必要なスタッフや団体の手配、必要物品や会場設営の準備等を自分たちの手でできるようにしていきます。そのサポートを「復興支えあいセンター」が行っています。

●今後の展開

今後は仮設住宅だけでなく、在宅被災者に対する支援も進めていかなければなりません。ただし、仮設住宅と違い、在宅被災者は実態が把握しにくい現状があります。「復興支えあいセンター」では、各地区の区長さんや民生委員さんはもちろんですが、例えば新聞配達員の方や郵便配達員の方といった定期的に住民へ訪問することが可能な方たちとも協力しながら、見守り活動・実態の把握・ニーズ調査を進めていきます。

●仮設住宅への支援について

現在は、住民も一緒に参加できるものや会場設営等の準備にも関わることができる活動を主に受け付けています。また、市内6カ所(山王・高橋公園・国府多賀城駅南地区・多賀城公園球場・多賀城中学校・青少年ホーム跡地)、各々の場所によって戸数や住んでいる年齢層、立地等、状況はさまざまです。支援活動を行いたい方は、各仮設住宅に合わせた内容の活動を行ってもらうため、まずは一度「復興支えあいセンター」までお問い合わせください。

所在地・連絡先等に関しては、今夏に移転を予定しています。詳しくは「復興支えあいセンター」HPでご確認ください。新しい連絡先等については、たがさぼブログ等でもお伝えします。



多くの支援をマッチングしてきた支えあいセンター
提供：多賀城市社協復興支えあいセンター

多賀城市社会福祉協議会 復興支えあいセンター

住所：多賀城市中央2丁目1-1(社会福祉センター2階)

電話：080-5949-7501

080-5949-7500(仮設住宅支援専用)

時間：午前8時30分～午後5時15分(月～金曜)

HP：<http://msv3151.c-bosai.jp/group.php?gid=10111>

E-mail：sasaesai@tagajo-shakyo.or.jp

多賀城お役立ち情報コーナー

NPOによるイベントや地域の取り組みを紹介します。困りごとの解決や復興に関わるきっかけとなる情報です。

サタデーモーニングカフェで気軽に地域交流 東田中南自治会

サタデーモーニングカフェは、東田中南自治会が平成20年から2ヶ月に1度開催している地域交流会です。参加者が毎回50名を超えるこの行事。大盛況の秘訣はどこにあるのでしょうか？企画・運営を行う福利厚生部部長の加覧さん、副部長の狩野さんにお話を伺ったところ、おしゃれで、自由で、女性や年配の方が参加しやすい「行ってみたい！」と感じる工夫が沢山ありました。

東田中南自治会は、多賀城で唯一集合住宅のみで構成された自治会です。集合住宅は、地域とのつながりを意識せずに生活できるという点が、気楽な一方で課題でもあります。孤立しがちな高齢者が地域と関わる場の必要性を感じていた時、朝に交流の場を設けているという自治会の事例を知りました。それを参考に始めたのがサタデーモーニングカフェです。

カフェのオープン時間は9時～11時。開店前、メンバーは地域で評判の美味しいパン屋さん、焼きたてのパン(17種)を取りに行きます。そして食べやすい大きさに切り分け、バイキング形式に並べます。挽きたてのコーヒーも自慢です。テーブルクロスを敷きBGMを流し、皆さんが来るのを待ちます。カフェという名前の通り、居心地の良い空間づくりを心がけていました。

たくさんの人が集まるポイントは二つありました。一つ目は「お酒

を出さない」ことです。交流会は夜にお酒を交えて行われることが多いのですが、朝に実施し、お酒を出さないことで、女性や年配の方の参加につながりました。

もう一つは「制限を設けない」ことです。主催者が意気込みすぎてしまうと、窮屈に感じる方も出てくると考え、あえてプログラムを設けていません。開会・閉会の挨拶も行わず、好きな時間だけ居ることができます。自由な交流の中から新たなつながりが生まれることを期待しています。

このように視点を変えて実施することで、今まで行事に参加していなかった方々が足を運んでくれるようになりました。

つながりをつくろうと行事を企画するけれど、なかなか人が集まらないという役員の方の悩みもあると思います。地区ごとの課題や背景はさまざまですが、安心して暮らすために地域交流が必要であることは共通しています。新たな地域づくりのヒントとして、参考にしてみたいはいかがでしょうか。



談笑する参加者のみなさん

Twitterでつながった一 つながろう編

前号(9号)では、Twitterの特徴と検索機能を紹介しました。今回は、Twitterを活用して人とつながる方法を紹介します。

他の人のつぶやきで興味あるものを見つけたら、つぶやいている人を「フォロー」してみましょう。「フォロー」とは、つぶやきを発信している人を登録する機能です。「フォロー」することによって、自分のTwitterページに「フォロー」した人のつぶやきが表示されるようになります。また、「フォロー」したことは相手にも分かるので、興味を持っているということを伝えることにもなります。

他の人のつぶやきに対して返信する機能もあります。返信を通して交流や情報交換を繰り返すことによって、信頼を築いていくこともできます。

震災後には、Twitterでのボランティア募集の呼びかけをきっかけに泥だしやイベントの手伝い等に関わった方もいます。

Twitterは、パソコンだけでなく携帯電話からも利用できます。今まで出会うことのなかった人とつながるきっかけとしてぜひ活用してみてください。

Twitterでやってみよう

- Twitterに登録
- つぶやいてみる
- Twitterで検索
- 気になった人をフォロー
- 他の人のつぶやきに返信
- 気になった活動に参加



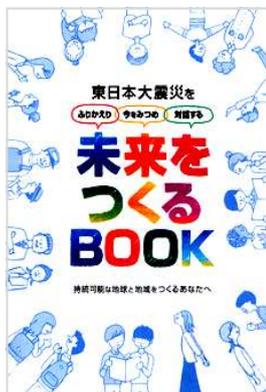
NPO相談窓口

被災者の困りごとや悩みごとに対応する相談窓口を紹介します。

<p>●心の「ピアサポート」相談電話● 大きな震災を体験してあなたの心、不安定になっていませんか？心の病を体験した私たちがあなたの心の声に耳を傾けます。お気軽にお電話ください。</p> <p>対象：震災における「心の悩み」を抱える方 団体：宮城県精神しょうがい者団体連絡会議 心のネットワークみやぎ</p> <p>電話：022-308-6067 時間：午前10時～午後4時(月～土曜 祝日は休み) H P: http://miyaseiren.blog97.fc2.com/</p>	<p>●ママパパライン仙台● 子育ての悩みや不安な気持ちを聴く専用電話です。電話を受けるのは専門の研修を受けたボランティアスタッフです。あなたのお話を受け止め、やさしくお聴きします。</p> <p>対象：子育て中のママとパパ 団体：NPO法人せんだい杜の子ども劇場</p> <p>電話：022-773-9140 時間：午前10時～午後4時(金曜) H P: http://www.ab.auone-net.jp/~senmori8/</p>
<p>●被災地障がい者センターみやぎ● 障がい者自身が運営している団体です。同じ障がい者の視点に立って生活をサポートします。お気軽にご相談ください。</p> <p>対象：障がいのある方 団体：被災地障がい者センターみやぎ</p> <p>電話：022-746-8012 FAX: 022-738-9501 時間：午前10時～午後6時(月～金曜) H P: http://blog.canpan.info/tasuketto/ E-mail: cil.busshi@gmail.com</p>	<p>●酒害相談● お酒に関する問題でお悩みの方、もしくはその家族の方を対象に酒害相談を行っています。一緒に考えて解決の道を見つけていきましょう。</p> <p>対象：お酒の問題で悩んでいる方、その家族の方 団体：NPO法人宮城県断酒会</p> <p>電話：022-214-1870 時間：午前10時～午後5時(月～金曜) H P: http://www15.ocn.ne.jp/~miyadan/</p>



たがさぽブックレビュー



〇たがさぽで閲覧・貸出ができます。

**東日本大震災を
 ふりかえり、今をみつめ、対話する
 未来をつくるBOOK**

著者：
 認定NPO法人
 持続可能な開発のための
 教育の10年推進会議

発行：
 みくに出版

発行日：
 平成23年11月18日

震災を通して、生活や社会について見つめなおし、そのあやうさに気づかされました。今回は、震災から今までのこと、そしてこれからのことを考えていく手助けをしてくれる本を紹介いたします。

本書は「被災地の暮らし」「世界とのつながり」「エネルギーと経済」といったテーマについて向き合うために必要な材料が用意されています。各テーマでは、まず『わたし・ぼく』という主人公が当時のことをふりかえています。読者も一緒に体験をふりかえることができるのです。次に新聞記事や「ボランティア活動者数の推移」等のデータ、被災者のインタビューがまとめられています。最後に「わたしにできることはなんだろう？」「原発事故で困ったことはなんですか？」といった〈問い〉が設けられ、ふりかえたこと・新聞やデータから見える事実・他の人の体験と照らして〈問い〉について考えたり、話し合えるようになっていきます。

この本は、決して正解をだすための本ではありません。さまざまな〈問い〉にしっかと向き合い、考え続けていくことが大切なのです。

〇「えん+じん」バックナンバー〇
 たがさぽホームページにてバックナンバーをダウンロードすることができます。また、ご希望の方はたがさぽ窓口にてお渡しします。
 ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>

〇発行：多賀城市市民活動サポートセンター
 〒985-0873 多賀城市中央二丁目25-3
 (多賀城市文化センター北隣、上水道部向かい)
 電話：022-368-7745 FAX: 022-309-3706
 ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>
 スタッフブログ：<http://blog.canpan.info/tagasapo/>
 Twitter アカウント：[@tagasapo](https://twitter.com/tagasapo)
 〇編集：NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター